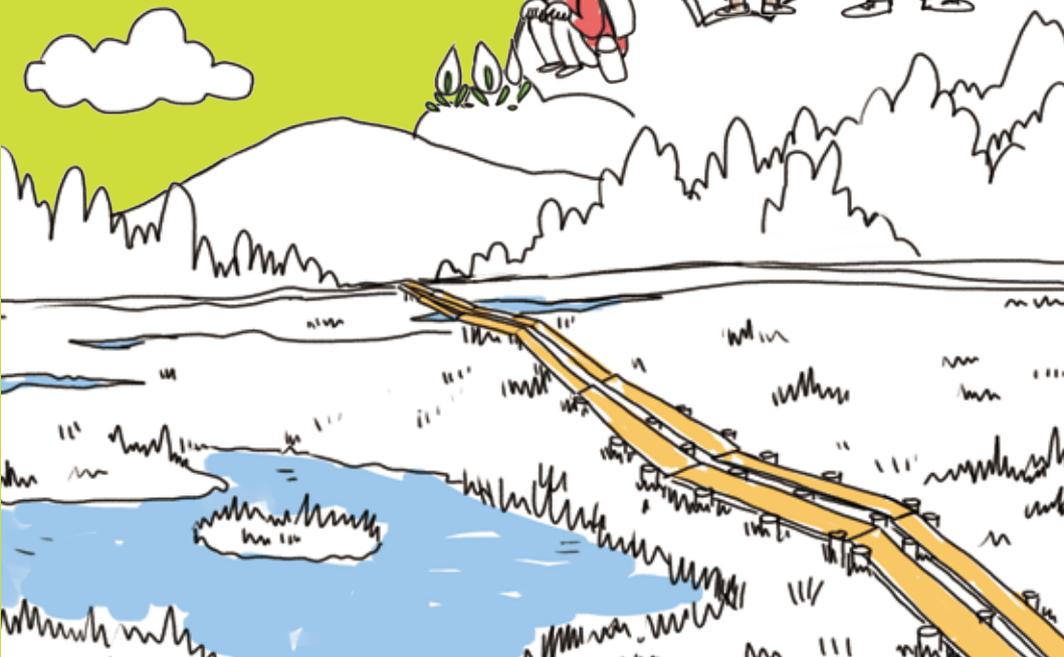


TEPCO

尾瀬と東京電力

ねえ、
お ぜ
尾瀬のこと、
教えてよ。





行ってみたいな～。



ニッコウキスゲ



ミズバショウ

わあ、
きれいな花。
この花は、
どこに咲いているの？



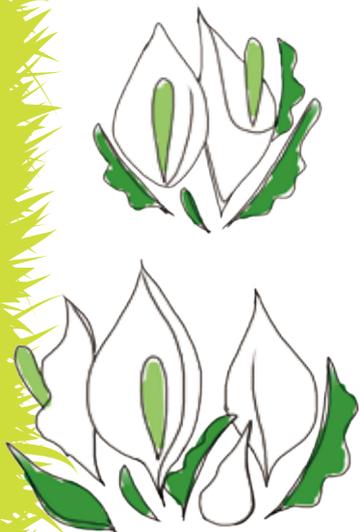
尾瀬国立公園だよ。

群馬、福島、新潟、栃木の4県にまたがる尾瀬は、
2007年(平成19年)、29番目に指定された
国立公園だよ。

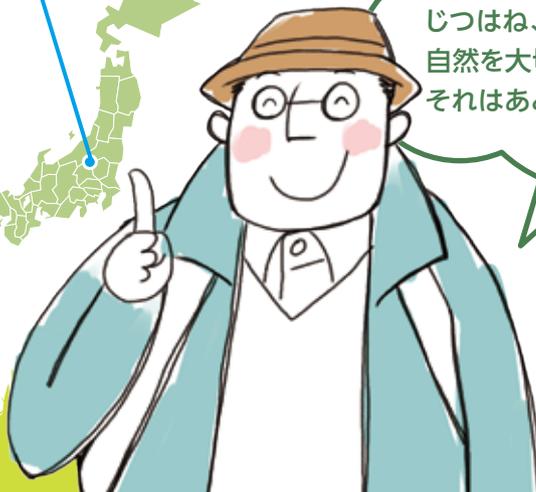
美しく、すばらしい大自然を

未来の子どもたちも楽しむことができるようにと、
国や地域の^{ちいき}人たちなど、

みんなで大切に守っているところなんだ。



尾瀬国立公園



じつはね、東京電力も尾瀬の
自然を大切に守っているんだよ。
それはあとで説明するね。



尾瀬ヶ原(おぜがはら)



オゼヌマアザミ



オコジョ

尾瀬は、どんなところなの？



尾瀬沼(おぜぬま)



至仏山 (しぶつさん)

燧ヶ岳(ひうちがたけ)

尾瀬のことは、なんでも聞いてちょうだい。



しづげん
尾瀬には広い湿原からなる尾瀬ヶ原、そして尾瀬沼があるよ。
しづつさん
周りには、至仏山や
ひうちがたけ
燧ヶ岳と2,000m級の
高い山々が連なっているんだよ。
しづげん
湿原、山、そして植物、動物と、
見どころがいっぱいだよ。



季節ごとにさまざまな植物を見ることができ、約900種(シダ植物以上)もあると言われているのよ。
「オゼ」と名のつく花もあるのよ。
また、オコジョやトンボ、イワツバメ、ツキノワグマなど、たくさんの動物たちも暮らしているのよ。





尾瀬のスゴイところ、
もっと教えて!

東電小屋

燧ヶ岳(ひうちがたけ)

みはらし
見晴

うしくび
牛首

ちとう
池塘

やまはな
山ノ鼻

しぶつさんちよう
至仏山頂から見た尾瀬ヶ原よ。
ところどころに見える池は
ちとう
「池塘」と呼ばれ
1,800以上もあるのよ。



尾瀬国立公園の面積は37,222ha。
東京ドームの約7,900個分の大きさなんだ。
国の「特別保護地区」や
「特別天然記念物」に指定されていて
動物や植物を勝手に採ったり
傷をつけたりしては、ぜったいにいけないところなんだよ。
それに落ち葉や枯れ枝も拾ってはいけないんだ。
自然を大切に守らないといけない
場所なんだよ。

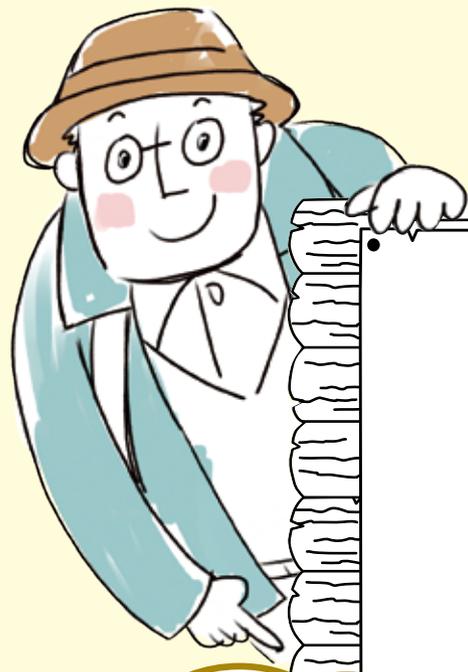


それにね、国際的にも重要な湿地を保護するための
しっち ほご
「ラムサール条約」※1に登録されている
ほご きちよう
世界に誇る貴重な自然があふれた場所なのよ。

※1 ラムサール条約:国際的に重要な湿地を保護するための条約。172か国が締結しており、日本からも釧路湿原や琵琶湖、尾瀬など54か所が登録されています。(データは2025年7月現在)

本州で一番広い
※2 高層湿原だよ。

※2 高層湿原については8ページに記載



とても長い 湿原ができ



2億年以上前に形成された岩が
長い年月をかけて隆起した至仏山。
数十万年前から
何度も噴火を繰り返してきた燧ヶ岳。

そんな山々に囲まれた尾瀬ヶ原や
尾瀬沼は、噴火によって川がせき止められ、
湖となったんだ。尾瀬ヶ原には「泥炭」が少しずつ
推積し、今の広い湿原になっていったんだよ。

年月をかけて たんだよ。



尾瀬ヶ原は、夏は涼しく、
平均気温が東京より約10℃低いので、
植物は枯れても完全に分解されず、
「泥炭」になるんですって。

今の湿原は、1年間に約1mmくらいずつの「泥炭」が
積み重なり、長い年月をかけて4.5~5mの厚い層に
までなって、現在の姿になったと言われているの。



尾瀬ヶ原のような
広い湿原は、
どうやってできたの？

湿原のでき方



尾瀬ヶ原の1cmは10年分の
積み重ねなんだね。



尾瀬

東京電力

尾瀬と東京電力の
つながりって？

コラム① 水力発電の今昔

東京電力ができた時は水力発電と火力発電は「8：2」の割合でした。
現在、水力発電の割合は小さくなっていますが、

- ・ CO2を出さないクリーンな発電方法であること
- ・ 資源が少ない日本では貴重な純国産じゆんこくさんのエネルギーであること

から、重要な発電方法と位置づけられています。

尾瀬ヶ原での発電計画は無くなりましたが、環境かんきやうに影響えいじやうが無いことを確認しながら、現在も尾瀬沼の水の一部を利用して発電を行っています。



尾瀬沼と燧ヶ岳

東京電力の土地
尾瀬国立公園全体の
約40%



明治から大正にかけての時代は、人々の暮らしに電気が入り始めた頃で、もっと多くの電気が必要になってきたの。
そのため、当時、発電（電気をつくること）の中心だった水力発電所（水の力で電気をつくること）の建設をすすめることが、日本の大きな課題だったのよ。
そこで大正時代に、当時の電力会社が、尾瀬の豊富な水みづを発電に活かそうと、土地と水みづを利用する権利けんりを取得したの。
そして、1951年（昭和26年）、「東京電力」ができた時に引き継つがれたのが、尾瀬と東京電力の出会いの始まり。
現在、尾瀬国立公園全体の約40%、特別保護地区の約70%（群馬県側のほぼ全て）が、東京電力の土地なのよ。

コラム② 東電小屋

尾瀬ヶ原の北のほうにある「東電小屋」は、昭和の初めに、当時の電力会社が降水量こうすいりやうの調査のために建てたもので、その頃は「水電小屋」と呼ばれていました。



昔の東電小屋(1927年建設)



現在の東電小屋



木道から降りて歩く人たち

多くのハイカーであふれている

1960年代(昭和30年代)の頃の写真だよ。



うきしま 浮島に乗っている人たち



だいら 荒廃したアヤマメ平



しつげん 湿原に入って遊ぶ人たち

どうして東京電力は、尾瀬の自然を守るためにがんばるの？



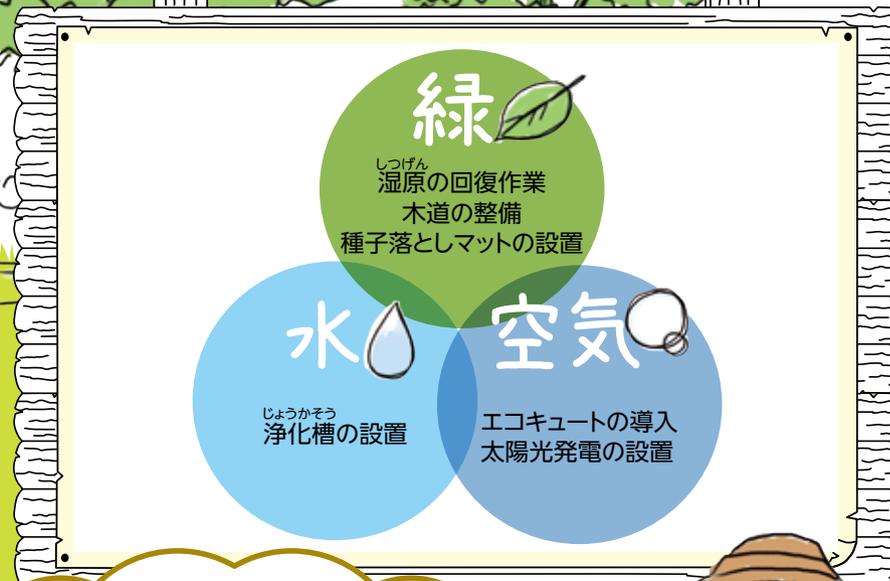
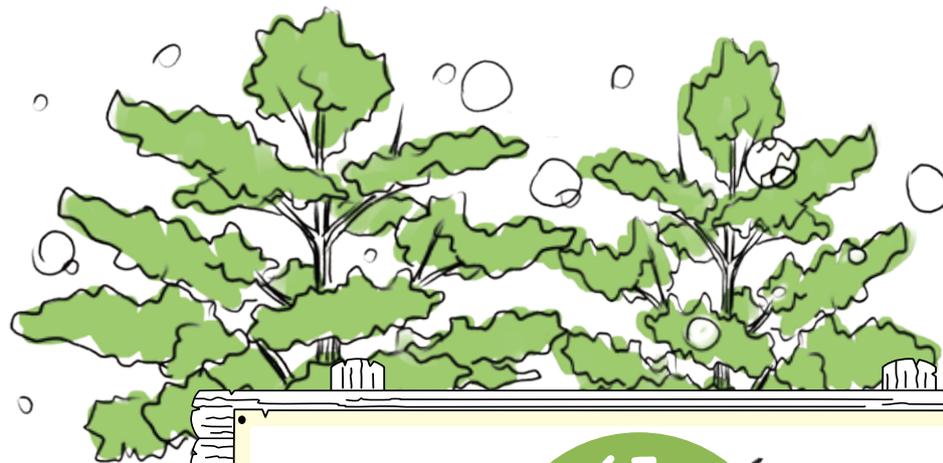
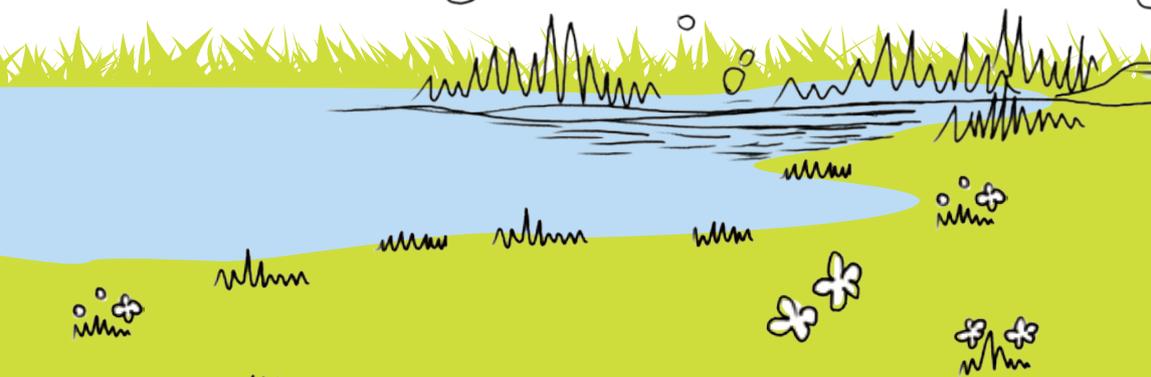
きっかけは、1960年代(昭和30年代)のハイキングブームのときよ。尾瀬の美しさにひかれて多くの人々が訪れたそうよ。でも、当時は自然を守ろうとするマナーもなく、木道や公衆トイレの設備も整っていなかったんで、尾瀬の自然はあっという間に荒れてしまったんですって。その頃から「このままにしてはいけない!」と、美しい自然を守っていこうという気持ちが芽生えるようになったのね。



東京電力は、「美しい尾瀬は国民みんなの財産」と考えているんだ。尾瀬の土地の所有者として、約半世紀にわたり、自然を守る活動に取り組んでいるんだよ。



東京電力は、
尾瀬の自然を
守るために、
どんなことを
しているの？



「**緑** 」「**水** 」「**空気** 」を
キーワードにそれぞれの
貴重な自然を守っているよ。

尾瀬を歩いてみようよ!



「緑」を 取り戻すって、 どういうこと?



かつて「**天上の楽園**」と呼ばれていたアヤメ平^{だいら}は、1960年代(昭和30年代)に多くのハイカーたちによって踏み荒らされてしまったんだ。
再び、辺り一面に緑を取り戻していこうと、1970年代(昭和40年代)から、荒れてしまった**湿原の手入れ**^{あ しつげん}に取り組み、今では、美しい**湿原**^{あ しつげん もど}が戻ってきているよ。



1 荒れてしまったアヤメ平^{だいら}



2 アヤメ平^{だいら}の回復作業地を決めます



3 ミタケスゲなど4種類の種子とみずごけ水苔をまきます



5 現在のアヤメ平^{だいら}



4 乾燥しないように、^{かんそう}乾燥しないように、^{かりくさ}刈草を、^{おお}ヌマガヤの刈草で覆います

人によって荒らされてしまった湿原は自然の力だけでは、なかなか元に戻らないんだね。

コラム③ 冬の活動

3~4mほど積もる豪雪地帯にある尾瀬は、11月から5月までの約半年間、アクセス道路が封鎖されてしまいます。東京電力環境保全スタッフは、訪れる人がいない厳冬期も約1週間にわたり入山し、山小屋や橋、公衆トイレなどの除雪作業を行います。



「緑」を守るって、 どういうこと?



木道は湿原を再び踏み荒らされないようにするために敷いているのよ。

そして、自然にあたる影響をできるだけ抑えながら、人々が自然にふれることができるように、尾瀬のほぼ全域の湿原や山間部に、約65kmの木道が敷いてあるのよ。

このうち約20kmは、東京電力が管理していて、10年前後で架け替えが必要なので、毎年計画的に整備しているんですって。

木道の上を歩き、
湿原に入っては
いけないんだよね。



尾瀬には貴重な植物がたくさんあるんだよ。でも、ハイカーの靴底についてきた植物の種が持ち込まれることで、尾瀬に生きる植物が、追いやられてしまうおそれがでてきたんだ。東京電力は、**種子落としマット**を群馬県側の入山口に設置し、靴底についた種をしっかりと払い落としてから尾瀬に入山するように呼びかけているんだよ。



コラム④ 大清水湿原回復プロジェクト

以前、大清水湿原は水芭蕉が咲き誇る湿原でしたが、近年はシカの食害などにより、多くの水芭蕉が無くなってしまいました。

2018年(平成30年)に地元の片品村を中心とした湿原回復プロジェクトが立ち上がり、東京電力も古くなったワイド木道の改修や水芭蕉の植栽を行いました。

現在も、地元の高校や企業と協力しながら、水芭蕉を植えています。



コラム⑤ 尾瀬の木道ペーパー

木道は、10年前後で架け替えています。

使い終わった木道は、紙の原料にリサイクルし、パンフレットや名刺などに活用しています。



「尾瀬の木道エコペーパー」
のロゴマーク

木道を架け替えている様子



「水」を守るって どういうこと?



尾瀬の公衆トイレは**高性能の浄化槽が完備**されている。
汚れた水は浄化槽を使って自然の川と同じくらいきれいな水にしてから川に戻しているのよ。

富士見峠にある公衆トイレ



富士見峠に設置した浄化槽

きれいな水を
守っているんだね。



「空気」を守るって どういうこと?



東電小屋で使用される電気の一部をまかなう太陽光発電



至仏山荘の前には、空気の熱でお湯を沸かす給湯機**エコキュート**が設置されているんだ。そして、東電小屋で使用される電気の一部と、富士見峠公衆トイレで使われるすべての電気を**太陽光発電**でまかなっているんだ。
この2つの取り組みはCO₂排出量の削減に役立って、尾瀬のきれいな空気を守っているんだよ。

至仏山荘に導入されたエコキュート



私たちにもできること あるのかな？



ゴミ拾いに 参加しよう！



ゴミの持ち帰りがすっかり定着した尾瀬でも、
キャンディーの^つ包^がみ紙^みなど、
細かいゴミはまだまだ落ちているのよね。
東京電力では、
“ゴミ持ち帰り運動”として
自分のペースで尾瀬散策を楽しみながら、
目についたゴミを拾っていく
「グリーンボランティア」を呼びかけているよ。



グリーンボランティアを行う人々



入山口で
呼びかけている様子



ゴミ袋

“ゴミ持ち帰り運動”

コラム⑥ ゴミ持ち帰り運動

ハイカーの出したゴミであふれるゴミ箱

ゴミであふれるゴミ箱の^{しり}処理作業に追われていた尾瀬では、1972年(昭和47年)、東京電力と関係会社である尾瀬林業(現・東京パワーテクノロジー)の発案で、ゴミ箱の^{てきよ}撤去が行われました。これが「ゴミ持ち帰り運動」の始まりであり、尾瀬が「日本における自然保護活動発祥の地」と呼ばれる理由の一つでもあるのです。





ほかにも なにかあるのかな？



尾瀬の南側に広がる尾瀬戸倉の森は、首都圏の水がめとして、尾瀬の自然を育む地帯として、大切な役割を担っているところなのよ。ところが、戦後に植林したカラマツ林の中に成長の良くない場所があることがわかったの。そこで東京電力は、本来の豊かな森を育てるために1997年(平成9年)から地域の方々とブナやミズナラなどの**植林ボランティア活動**を始めたんですって。

植林作業



一緒に、森を育てよう!



植林に加え、混み合っている木を切る**間伐ボランティア活動**も行っているんだ。間伐すると、地面に光が届き、健全な森が育つんだよ。また、2009年(平成21年)8月には、森林のCO₂吸収・生物多様性認定(フォレストストック認定※1)を、2010年(平成22年)2月には、国際的な森林認証制度FSC※2も取得し、外部機関のアドバイスも受けながら、管理しているんだよ。



間伐作業

※1 フォレストストック制度

「森づくりにおける森林吸収源・生物多様性等評価基準」に従った森林の管理・経営レベル、生物多様性の保全レベル、森林吸収源(CO₂吸収量のクレジット)の適正な調査手法、およびそれに基づく森林の評価のための制度。

※2 FSC認証

林産物がきちんと管理された森林から生産されているか、リスクの低い林産物を使用した製品かなどを、目に見える形で消費者に届ける仕組み。

春や初夏には、 どんな花が咲くの？



ガゼンソウ(座禅草)
5月上旬～6月上旬

花を包む苞(ほう)が紫色をしています。お坊様が座禅(ざぜん)をしているように見えることから名付けられました。



ミズバショウ(水芭蕉)
5月下旬～6月下旬

水辺に多く見られ、雪解けと同時に姿を現す春の尾瀬の代表花です。「白い妖精」とも呼ばれています。



タテヤマリンドウ(立山竜胆)
5月下旬～6月下旬

タテヤマリンドウのつぼみはソフトクリームのように渦巻き状になっています。そして、晴れている時にだけ咲きます。



リュウキンカ(立金花)
5月下旬～7月上旬

小川の周辺で多く見られます。雪解けから夏の初めまで、長く咲いています。



ミツガシワ(三柏)
5月下旬～7月上旬

ルーペで白い花を拡大すると、花びらに細くて長い毛がたくさんついています。主に池塘(ちとう)のまわりで見ることができます。



チングルマ(稚児車)
6月中旬～7月上旬

木道沿いでよく見かけます。実の形が子供の風車に似ていることから「稚児車(ちごぐるま)」が「チングルマ」と訛(なま)ったそうです。



ワタスゲ(綿菅) [果穂]
6月下旬～7月上旬

白い綿毛のようなものは、実の集まり=果穂(かすい)と言い、熟すと風で飛ばされていきます。シーズンによって、多く見られる年もあります。



トキシウ(朱鷲草)
6月下旬～7月上旬

花の色が、朱鷲(トキ)の羽色に似ていることから名付けられたそうです。



カキツバタ(杜若)
7月上旬～7月下旬

同じ頃に似たような花・ヒオウギアヤメが咲くのですが、花びらの模様が違う(カキツバタは白いすじが1本)のですぐに見分けることができます。



ニッコウキスゲ(日光黄萱)
7月上旬～8月上旬

夏の尾瀬の代表花です。和名はゼンテイカ(禅庭花)と呼ばれています。一日花で朝方には開花し、夕方にはしぼみます。



キンコウカ(金光花)
7月上旬～8月上旬

黄色い花をし、葉が剣のように先がするどい形をしています。秋の草紅葉(くさもみじ)の頃には、葉がオレンジ色に染まります。



ヒツジグサ(未草)
7月上旬～9月上旬

ひつじの刻(午後2時頃)に花が開くことから名付けられたと言われていますが、午前中でも花は見られます。

せい か

盛夏から秋にかけて 見られる花は？



オゼコウホネ (尾瀬河骨)
7月中旬～8月中旬

花の中心が赤いのが特徴です。尾瀬以外では月山(山形県)と北海道の一部でしか見つからない珍しい花で、研究見本園や尾瀬ヶ原のやや深い池塘(ちとう)で見ることができます。



ナガモノウセンゴケ (長葉の毛氈苔)
7月中旬～8月中旬

虫などを捕まえて養分を取る食虫植物の仲間です。尾瀬以外の自生地(自然に生えているところ)が北海道しかないと言われ、国内では稀少です。



サワギキョウ (沢桔梗)
7月下旬～8月下旬

尾瀬で深まりゆく秋の風情を伝えてくれる花です。尾瀬ヶ原で多く見られます。



ミズギク (水菊)
7月下旬～9月上旬

ニッコウキスゲが咲き終わった7月下旬頃から、主に尾瀬ヶ原で見られます。葉の裏に小さな点の模様が多いのが特徴です。



オゼヌマアザミ (尾瀬沼薊)
7月下旬～9月下旬

尾瀬沼周辺で発見されたことにより名付けられ、尾瀬周辺でしか見られません。花の下につく緑色をした太い針のような総苞片(そうほうへん)が特徴です。花が開くと多くの昆虫が蜜(みつ)を求めて集まります。



アケボノソウ (曙草)
7月下旬～9月下旬

花びらの模様にある黄色が月、黒が星と、まるで夜明けの星空のように見えることから名付けられたそうです。



イワショウブ (岩菖蒲)
8月上旬～9月上旬

茎(くき)を触ると粘(ねば)りますが、これはアリなど地面にすむ昆虫類が登って花粉や蜜を持ち去るのを防ぐためと考えられています。



ウメバチソウ (梅鉢草)
8月中旬～9月中旬

花の形が、「梅の花」をデザインした家紋に似ていることから名付けられたそうです。とても清楚な花で尾瀬ヶ原でよく見かけます。



ソバナ (蕎麦菜)
8月下旬～9月上旬

鳩待峠から山ノ鼻に向かう木道沿いでよく見ることができます。ラッパのような形で下を向いて咲いているのが特徴です。



トリカブト (鳥兜)
8月下旬～9月下旬

紫色のきれいな花を咲かせますが、全体に毒を持つ有毒植物で注意が必要です。鳥兜(とりかぶと)とは、舞楽(ぶがく)で用いる鳳凰(ほうおう)の頭をかたどった兜で、花の形が似ていることから名付けられたそうです。



エゾリンドウ (蝦夷竜胆)
9月中旬～10月上旬

尾瀬の湿原では、シーズンの終わりに咲く花です。基本は紫色をしています。研究見本園などでは、真っ白に咲く花が見られることもあります。



ナナカマドの実 (七竈)
10月上旬～

6月下旬～7月上旬には白い花を咲かせますが、秋には、葉と実が赤く染まり、とても鮮やかな色になります。かまどへ7回入れてもまだ焼け残った、と言ったとえから名付けられたそうです。



尾瀬のシーズンで出会える動物は、ななに？



ハッチョウトンボ

尾瀬には約40種類ほどのトンボが生息しています。なかでもハッチョウトンボは体長が約2cmととても小さく世界最小レベルです。オスは7月頃に成熟すると、鮮やかな赤色になるのが特徴です。



アカハライモリ

名前のおおりに、ひっくり返すとお腹が赤いのですが、模様はそれぞれ違ってきます。池塘(ちとう)の中で泳いでいる姿をよく見かけます。じっくり観察してみてくださいね。



イワツバメ

尾瀬では6月上旬から9月下旬まで見られ、冬は東南アジアなどで越冬します。岩場に巣を作ることが名前の由来になっていますが、尾瀬では山小屋に巣を作ることが多いようです。



オコジョ

イタチの仲間でもとても可愛い顔をしています。肉食で自分よりも体の大きいノウサギなども食べてしまうそうです。オコジョを発見したときに、山ノ鼻ビジターセンター、尾瀬沼ビジターセンターに報告すると、「発見証明書」をもらえます。でも、動きはすばやく、簡単には見つかりません。



ツキノワグマ

大きなきばやすどい爪を持っていますが、性格はおとなしく、ブナなどの木の実やギョウジャニンニクの若芽など植物を主に食べる雑食性です。急に会おうと向かってくることもあります。見かけたら、静かにその場を離れてください。



イワナ

冷たい水を好み河川の一番上流に住むイワナは、生命力が強いといわれ、昔から山間に住む人々の貴重な食料でした。国内のイワナは、模様などの特徴から大きく4種に分けられます。尾瀬ではニッコウイワナが見られます。



ニホンジカ

尾瀬の中にはいないとされていたニホンジカが、この十数年増え続け、湿原内の植物を食い荒らすなど問題を起こしています。特にミツガシワの多い場所では、根などを食べるために湿原には掘られたあとが見られます。



尾瀬のルールを、 教えて!

安全に楽しむために!

尾瀬は山。

自分の安全は自分で確保。

- 尾瀬は山岳^{さんかく}地帯。とくに靴^{くつ}や服装、雨具類など登山にふさわしい準備をする
- 時間的・体力的に余裕^{よゆう}を持った行程を組む
- 木道は滑りやすいので、気をつけて歩く
- 倒木^{とうぼく}、落石^{じようきよう}など周囲の状況に気をつける
- クマと出会わないよう鈴などをつける

ちゃんと
守ろうね。

自然を保護するために!

小さな気づかいで
尾瀬の繊細^{せんさい}な自然を守ろう!

- 靴底^{くつぞこ}についた雑草の種を落としてから入山
- 湿原^{しつげん}には入らない
- 動植物は持ち込まない、持ち帰らない
- ごみは必ず持ち帰る
- 山小屋は予約制
- 石けん・シャンプーの使用は自粛^{じしゆく}する

みんなで守っていくことで
尾瀬の美しい自然が
保たれているんだね。

もっと尾瀬のこと、知りたい!

今すぐ、Webにアクセスしよう!

尾瀬と東京電力

検索



東京電力リニューアブルパワー株式会社

〒100-8560 東京都千代田区内幸町1丁目1番3号

電話: (03)-6373-1111(代表)

